

## サハ共和国・ヤクーツクだより ④

杉嶋俊夫

日本に帰国して一月半経ちました。私がサハ共和国を訪れることは当分ないかもしれませんが、引き続き、あと数回、現地で見聞きしたことを書かせて頂きます。今回は、サハを象徴するものをご紹介しますながら、日本国内のサハ関連情報にも触れたいと思います。

### ■ サハといえば...

① **マンモス** サハは寒冷な気候ゆえに、たびたび良好な保存状態でマンモスの死体が発見されます。私の滞在中も北部地域で発見されたマンモスから血液と歯が採取されたというニュースを耳にしました。日本では2005年の愛・地球博でサハのマンモスが展示されて話題になりました。今も、2010年に発見されたユカというマンモスがパシフィコ横浜で展示されています。特別展マンモスYUKA/9月17日まで。(http://yuka2013.com)

② **ダイヤモンド** 意外に思われるかもしれませんが、サハはソ連時代からダイヤモンドの産地として有名でした。日本でも何年も前からサハダイヤモンドという企業が宝飾品の販売を行っています。もちろんヤクーツク市内にもダイヤモンド販売店や主に宝石を扱うショッピングセンターなどがあります。

③ **音楽** サハでは音楽活動が盛んです。ジャンルも、民謡・ポップス・ロック・ジャズなどが独自の発展をとげ、若者の間ではサハ語のラップ音楽が流行っています。サハが口琴(ホムス)王国とも呼ばれていることは以前触れましたが、その口琴が様々なジャンルで使われています。伝統音楽の流れをひくハティラーエフ夫妻や女性トリオ「アヤルハーン」は何度か日本を訪れています。今年も10月6日に上野でアヤルハーンのライブが予定されています。Sound live Tokyo 2013 (http://www.soundlivetokyo.com/2013/ayarkhaan.html)

④ **オイミヤコン村** 世界一寒い村として、最近、日本では毎年のようにテレビや新聞などで取り上げ

られています。個人旅行で訪れた日本人さえいるとか・・・。真冬は-50度まで下がるそうです。この村に住んでいるのは、ツングース諸語(アルタイ系)のひとつを話すエヴェン人で、オイミヤコンとはエヴェン語で「不凍の水」という意味。ちなみに、(2)(4)に関しては、今年、朝日新聞ウラジオストク支局長の西村大輔記者が面白い記事を書いていらっしゃいます。そのうちまたサハの記事が載るかもしれません。

⑤ **映画** 演劇や映画制作の専門家を養成するコースがヤクーツクの大学・専門学校にあり、続々と新作が作られています。私はあまりタイミングが合わず2本だけしか観られませんでした。毎週ヤクーツク市内では、

参加費無料の映画カフェが開かれています。映画作品を鑑賞した後、その作品の製作スタッフを囲んで質疑応答が行われるのです。今年8月に、初めての試みとして、ヤクーツク国際映画祭が開催されました。

⑥ **夏至祭り** サハの伝統では6月が正式な正月で、6月に入るとサハの各地でその「正月」を祝う祭りが開かれます。ヤクーツク市郊外で行われる夏至祭りは、



夏至祭りのオープニング ヤクーツク市郊外で行われる夏至祭りは2日間行われ、2日目の夜明けには、伝統的な新年を迎える儀式が行われます。

近年、海外から訪れる観光客が増えているようです。

この他に、サハのキーワードを挙げるとしたら、「馬」、「サーカス」、「少数民族」、「ファッションデザイン」、「漫画」などが続くでしょうか。機会を見て紹介したいと思います。

最後にちょっと宣伝を…。9月29日(日)18:30～JR淵野辺駅近辺の施設でヤクーツク滞在のお話をさせていただきます。町田市内外の民族音楽関係者や人類学・民俗学研究者などが集う私的な集まりで、今回は私がゲストスピーカーを務めます。私の滞在期間は冬の終わりから僅か4ヶ月弱で、現地の一般家庭を覗く機会はなく、また、29日は「常連の参加者寄り」の話題提供が多くなると思われます。その点をご理解いただいた上で、参加を希望される方は、toshiosugi@gmail.comにメールでお申し込み下さい。(参加費無料。具体的な場所は申し込まれた方にお知らせします。)